

科目名称：	幼児と環境	
担当者名：	村上 知子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>(1) 乳幼児を取り巻く環境と、幼児の発達について理解する。 (2) 乳幼児を取り巻く社会環境の問題点と課題を説明できる。 2) 人的環境と物的環境の視点を説明できる。 3) 幼児と環境との関わり方について専門的概念を用いて説明できる。 (2) 乳幼児の思考・科学的概念の発達を理解する。 (1) 乳幼児の認知的・身体的発達の特徴と道筋を説明できる。 2) 乳幼児の発達と生物・自然との関わり道筋を説明できる。 3) 乳幼児の物理的、数量・図形との関わり道筋を説明できる。 (3) 乳幼児期のまわりの環境との関わりを理解する。 (1) 乳幼児を取り巻く標識・文字等との関わり方を説明できる。 2) 乳幼児を取り巻く情報・施設、安全な環境について説明できる。 3) 乳幼児と児童文化財との関わりを説明できる。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
現代の乳幼児を取り巻く環境とその現代的課題、乳幼児の発達特性と環境との関わりを学ぶ。領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技術を基礎とした指導力や保育を構想できる力を身につける。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	○
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)					0
幼児教育DP(3)	60	10	20	10	100
幼児教育DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》保育士	《経験年数1》8ヶ月
	《内容2》幼稚園教諭	《経験年数2》20年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
知識	講義で学んだ知識を組み合わせ、それを活かして積極的に講義に参加できる	講義で学んだ知識を組み合わせ、それを活かして講義に参加できる	講義で学んだ知識を組み合わせ、考えることができる	講義で学んで知識を組み合わせ、考えることができず、専門性が乏しい
環境についての理解を深める	身の回りの環境や保育の環境に目を向け、問題意識をもち自らの学びの中に積極的に取り入れ関わることができる	身の回りの環境や保育の環境に目を向け、自らの学びの中に取り入れ関わることができる	身の回りの環境や保育の環境に目を向けることができる	身の回りの環境や保育の環境に目を向けることができず、専門性が乏しい
学びへの積極性	自分の課題を持ち、話を聞く態度が良く、質問や意見などを、毎回1回以上述べるができる	自分の課題を持ち、話を聞く態度が良く、質問や意見などを、時々述べるができる	話を聞く態度が良い。質問されれば、答えることができる	発表や意見を言うことができず、私語や居眠り等をしている

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 現代社会の乳幼児を取り巻く環境とその課題（ICTの活用） －知識基盤社会、貧困、虐待等	知識基盤社会、貧困、虐待についてまとめておく。	30分
第2回 乳幼児期の発達と環境との関わり①－子どもを取り巻く人的環境からの視点	事前に配布する人的環境のプリントを記入しておく。	30分
第3回 乳幼児期の発達と環境との関わり②－子どもを取り巻く物的環境からの視点	事前に配布する物的環境のプリントを記入しておく。	30分
第4回 乳幼児期・児童期の認知的発達（ICTの活用）－乳幼児・児童期の認知的発達の特徴と環境との関わり	乳幼児期・児童期の認知発達の特徴をレポートにまとめておく。	30分
第5回 乳幼児期・児童期の身体発達（ICTの活用）－乳幼児期・児童期の身体発達の特徴と環境との関わり	乳幼児期・児童期の身体発達の特徴をレポートにまとめておく。	30分
第6回 乳幼児期の自然との関わり①－乳幼児期の生物・自然との関わりと具体的な活動（身近な素材や自然物の遊び、自然体験活動等）	秋の自然（特に植物）について調べておく。	30分
第7回 乳幼児期の生物との関わり②－乳幼児期の生物・自然との関わりと具体的な活動（水栽培、飼育等）	水栽培の栽培方法を調べておく。	30分
第8回 乳幼児期の物理的、数量・図形との関わり－乳幼児の物理的、数量・図形との関わりと具体的な活動（動くおもちゃ作り等）	年齢にあわせた動くおもちゃを調べておく。	30分
第9回 乳幼児期の標識・文字との関わり－乳幼児を取り巻く標識・文字環境との関わりと具体的な活動（標語、マーク、文字探し等）	日常にある標識・マーク等を調べておく。	30分
第10回 乳幼児期の情報・施設との関わり（ICTの活用）－乳幼児の生活に関連のある情報・施設との関わりと具体的な活動（学内自然マップ作り等）	自然マップを作るためにグループで事前に学内の自然を調べておく。	60分
第11回 乳幼児期の行事や国旗との関わり（ICTの活用）－乳幼児期の行事や国旗を通して文化や国際理解を深める	1年間にどのような行事があるかをレポートにまとめておく。	30分
第12回 乳幼児の発達と児童文化財の意義－乳幼児期の発達と児童文化財の関わりと具体的な活動（絵本、紙芝居等）	指導案を書く題材として、絵本や紙芝居を探しておく。	30分
第13回 乳幼児期の安全な環境（ICTの活用）－乳幼児期に必要な安全で衛生的な環境構成法	授業で行なった安全に関する内容をレポートにまとめておく。	30分
第14回 環境を通じた教育・保育の現在の課題（ICTの活用）－主体的な学び子どもを育てる環境について	主体的な子どもとは、どのような状態を示す言葉なのかを調べておく。	30分
第15回 まとめ	配布プリントやノートで全講義の内容について確認しておく。	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。
クイズ(10%)、提出課題(20%)、授業への積極的関与(10%)

課題に対するフィードバック

提出された課題はルーブリック等で評価し、返却する。

教科書・参考書

テキスト：「幼稚園教育要領」「保育内容環境」酒井幸子編著 萌文書林
参考書・参考資料等 「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「子どもの社会的発達」（井上健治他 編 東京大学出版会）